

日本大学文理学部 高大連携教育推進委員会の活動について

市原 一裕¹⁾

I. はじめに

今回、日本大学文理学部において教職センターが開設され、学部内の教職関連委員会が整備・再配置されるにあたって、これまで独立して設置されていた高大連携教育推進委員会は、教職センター運営委員会の下部委員会と位置付けられることになった。まず、この点について、簡単に経緯を説明する。

そもそも文理学部高大連携教育推進委員会（以降、本委員会と略記）の学部からの諮問事項は、主には「付属高校並びに周辺の中学・高校との連携教育の推進について審議し、計画案を作成する。」というものである。つまり、本委員会が目指しているものは、「文理学部の学生」と「櫻丘高校を主とする連携協力校の生徒」に対して、文理学部の大学教員と協力校の教員とが連携・協働し、共により良い教育を行うという「高大連携教育」を推進することである。これはいわゆる文部科学省が近年、推し進めている「高大接続改革」とは異なることに注意してほしい。文科省がいう「高大接続改革」とは、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を「それぞれ」を改革し、さらにその改革を一体的に行うことを意味しているからである。（中央教育審議会答申、平成26年12月22日）

上記の目的に向けて、特に文理学部の学生に対する教育を考えると、協力校の高校教員との連携が最も有効かつ必要なのは、「教職志望の大学生に対する教員養成教育」においてであると考えられる。一方で、歴史的経緯からも教職志望の

学生が多い文理学部において、近年、より充実した指導を行うため、様々なプログラムが組み立てられ、その取り組みの一つの集大成として開設されたのが文理学部教職センターであった。したがって、このような経緯から、本委員会は教職センター運営委員会の一部として、教職センターと協力し、高大連携教育を推進していくことになったのである。

以下では、これまで本委員会が主に進めてきた活動について簡単に報告し、さらに教職センターと連携することにより今後、推進していく活動計画について説明する。

II. 活動報告事例

本委員会が主に昨年度及び本年度に企画・運営してきた高大連携教育活動は、主に次の3つである。

1) 高大連携教育協定提携校生対象の科目等履修生の受入れ

協定校である櫻丘高校、鶴ヶ丘高校及び都立松原高校の生徒を対象に、文理学部の一部の講義について、科目等履修生として受講できるようにしている。主に高校の放課後を利用し、大学の5限に開講している総合教育科目など1年生対象科目を選択している。受講料は無料で、取得単位は文理学部に入学後は認定科目として取得可能である。今年度は櫻丘高校から6名、日本大学鶴ヶ丘高校より1名を受入れた。履修予定の科目は以下のようなものである。社会福祉概論1、倫理学概

1) 高大連携教育推進委員会委員長

論 1, 日本史概説 1・2, 情報処理入門 1, 心理学 1・2, ドイツ語基礎 1, 力学 1, 統計学 2

2) 付属校生対象体験授業の実施

平成 22 年度より, 付属校生 (保護者を含む) を対象に大学の授業を高校生が体験的に受講できるイベントとして企画「体験授業」を実施してきた。実施の目的は, 付属高校の生徒が, 文理学部キャンパスにおいて, 大学教員から直接に授業を受けることで, 大学あるいは学科の教育・研究内容に触れ, 「大学とは何か」「学問とは何か」「学問の面白さ」等の理解を深め, そして将来の進路決定の手助けとなるようにすることである。近年は, 秋季オープンキャンパスの午前中を使って, 18 学科を 3 学科ずつ 6 系統に分け, 25 分 3 コマで 1 セットとして開催している。昨年度は, 10 月 1 日 (日), 10:00 ~ 11:35 に実施し, 計 473 名の付属校生・保護者が参加した。授業題目は例えば, 「東京の地下を考える」(地球科学科), 「歴史学の面白さ - 伝統は創られる? -」(史学科), 「現代を生き抜くための社会学 - 現代社会の「生きづらさ」 -」(社会学科), 「人にやさしいコンピュータの創り方」(情報科学科) などであった。

3) 櫻丘高校 1 年生キャンパスツアー (および引率学生ボランティア) の実施

平成 29 年度より, 櫻丘高校新入生が入学後, 櫻丘高校内の施設案内のため行う校内ツアーを, 文理学部内にまで拡張することにより実施している。今年度は, 4 月 14 日 (土) 9 時 / 10 時からの 2 部制とし, 櫻丘高校 1 年生全員 (13 クラス・約 520 名) が参加した。1 クラスを 2 グループに分け, 各グループのガイドは文理学部学生ボランティアおよび教務課入試係職員が行なった。学生ボランティアは, 今年度, 櫻丘高校で教育実習を行う 4 年生 12 名であり, 教育実習に向けた教員養成教育の一環としての意味も持たせている。実際のツアーはおおよそ 20 分間という短いものであり, 櫻丘高校生が使う可能性のある施設 (図書館, 学生食堂 (第 2 体育館, 3 号館), 本館 (学習スペース (ラーニングコモンズ)), 1 号館, その他施設 (売店等)) に絞って簡単な紹介を行なった。

Ⅲ. 今後の活動について

今年度から併設校である櫻丘高校は「櫻イノベーション」と称して様々な改革を打ち出し, 大きく変容を遂げようとしている (日本大学櫻丘高等学校ホームページ「学校長あいさつ」)。これと関連して, 本委員会としても「高大連携教育」をより推し進めることを計画している。以下の具体的な活動についてはまだ計画段階であるが, 櫻丘高校ともより緊密な連携を取りつつ実施に向けて検討を続けている。

櫻丘授業見学, 文理学部理系実験室見学 (数年前から教職センターおよび化学科が個別に実施していたものを高大連携の枠組みに取り入れる), 放課後学習支援ボランティア, 大学教員によるセミナー, 櫻丘高校生が取り組む学習イベントへの大学教員・大学生による指導・サポート, プロジェクト教育科目等を利用した高校生・大学生による協働学習

なお授業見学については, 2010 年度より数学科で実施しており, その実施状況は数学科 web page にて公開している。

なお本委員会のこれまでの活動においては, 前委員長の紅野謙介先生, 前副委員長の小倉 理先生, 文理学部教務課の担当職員の方々, はじめ関連の多くの教職員の方々のご尽力があったことを, 心よりの感謝とともに, ここに付け加えさせていただきます。

引用文献

- 中央教育審議会答申 (中教審第 177 号), 「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育, 大学教育, 大学入学者選抜の一体的改革について (答申)」, 第 96 回総会, 平成 26 年 12 月 22 日。
- 日本大学櫻丘高等学校ホームページ「学校長あいさつ」 (<http://www.sakura.chs.nihon-u.ac.jp/about/greeting.html>), 2018 年 5 月 3 日閲覧。
- 日本大学文理学部数学科「教職学生支援プロジェクト」授業観察 (日本大学櫻丘高校), (<http://www.math.chs.nihon-u.ac.jp/?p=889>), 2018 年 5 月 3 日閲覧。